

路地百選推薦書【No. 9 1 5】

推薦者氏名：鈴木 俊治

推薦する路地（のまち）の名称	台湾 九份（ジオフェン）
所在地	新北市瑞芳区(台北市近郊)

アジアの魅惑的な都市空間がもつ共通要件として、以下があると考えます。

1. ヒューマンスケールで伝統的な形態が保たれており、密な賑わい(人が多い、道や空間が狭い＝高密)がある
2. 公共空間での多様なアクティビティがある。またはそこへの滲みだしが大変多い。
3. 自国文化を基盤としながら西洋文化との混在がある。建築、屋外看板、調理設備(屋外から見える)などは、古いがよく使いこまれ、地域性と経年変化による味わいを持っている
4. 温和な気候のため屋外活動が多く特に夜も路上がにぎわう。(東南アジアの場合)

アジアの雑然とした街は、ともすれば「遅れている」、「貧しい」、「汚い」などと解されてきたが、市民や来訪者に大いに支持され利用されている。各地の歴史、気候風土に基づいた誇るべきものであり、都市の個性的魅力としてアピールし、その質を継承すべきものである。路地はそのような魅力、特質が凝縮した、重要な都市空間である。路地を含む境界は歴史的・文化的価値が高いものも多い。

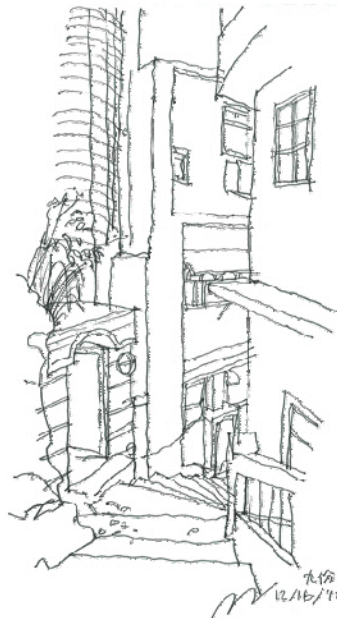
台湾にはにぎやかな路地空間が多いが、九份は其中でも独特の歴史があり、特筆すべきものであろう。路地網の基軸となるふたつのみち「基山街」、「豎崎路」は幅員 2-3m 程度で、沿道は間口の狭い飲食店、土産物店が並ぶ。みちと店舗・建物が一体化したような空間で、多くの人たちでひしめき合い、店の人の掛け声、湧き上がる湯気、歩く食べる人々の会話など大変な活気である。もしこの場所で火事が起こったらどうなるかと思うと、ちょっと怖い感じもある。豎崎路は斜面と直行し、急な階段が多く、上下に狭く開き続く景観が楽しめる。

それら、いわば商業系の路地の奥・裏に住宅地を巡る路地網がある。そちらは幅員はさらに狭く歩く人は少ない。今でも生活空間として静かに生きている。斜面の中に大きな寺院があり、路地網の頂上には小学校がある。

このような急峻な斜面に都市を築くには大変な労苦があったことは、想像に難くない。生活も容易ではなかったと思われる。街中がその痕跡、気配に包まれている。そのような都市を築き継承されてきた人たちに大いなる敬意を表する。

台湾は現在国際的な位置が微妙で国連にも加盟していないため、九份はユネスコの世界遺産などではないが、九份は十分それに匹敵する歴史的文化的価値を有する街である。

【写真】



路地	面積	約	h a	路地の延長	約	m
のまちの概要	まちの成り立ち、特色等	九份は台北の東 30km ほどに位置し、日本統治時代に金鉱として開発された。急斜面に這うように街がつくられ、幅員の小さな路地網が形成された。金鉱は 1971 年閉鎖され、その後は衰退していたが、1989 年、ベネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞した映画「非情城市」のロケ地となったことを契機に再び注目を集めた。若いアーティストらが九份に移住して創作活動を始めるとあり、来訪者が大幅に増えて観光化した。日本では 2001 年、宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」で街並みや建築のモデルとなった街としても知られる。				